

知内町地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

知内町は、北海道の南端渡島半島の南西に位置し、東側は津軽海峡を隔てて青森県下北半島をのぞみ、木古内町や福島町、上ノ国町と境界を接しており、総面積196.75km²、人口4,320人(令和元年9月末)で、そのうち高齢者の人口割合は約38%を占めており、今後は、さらに高齢化が進行することが見込まれている。

そのような状況の中、本町では函館バスの地域幹線系統(函館松前線・木古内松前線・函館小谷石線の3系統往復13便)が唯一の公共交通機関となっているため、交通空白地帯に住む高齢者などの交通弱者等の生活利便性の向上を図ることが必要となっている。

生活交通確保維持改善計画の目標

知内町予約運行型年間利用者数 144人

令和元年度事業概要

【運賃】片道 大人 200円 障がい者、子ども 100円

【運行区域】町内全域

【運行日】火曜日:小谷石方面

水曜日:湯ノ里方面

木曜日:中ノ川方面

金曜日:上雷方面

【運行便数】各方面往復2便

【運行方法】予約運行型※前日17時までに予約

【支払方法】現金 又は 交通系ICカード

※令和元年5月28日から運行を開始

※運休日は、令和元年12月31日～令和2年1月6日

地域公共交通の現況

・函館バス

函館松前線:往復3便・木古内松前線:往復7便

函館小谷石線:3便

・スクールバス(小中学生が対象)

協議会開催状況

平成31年3月19日 第2回知内町地域公共交通会議を開催

・本格運行に向けた運賃・運行区域等について

令和元年6月25日 第1回知内町地域公共交通会議を開催

・デマンドバス運行条例、地域内フィーダー系統確保維持計画意見聴取

令和2年1月21日 第2回知内町地域公共交通会議を開催

・デマンドバス運行状況、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価

令和元年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

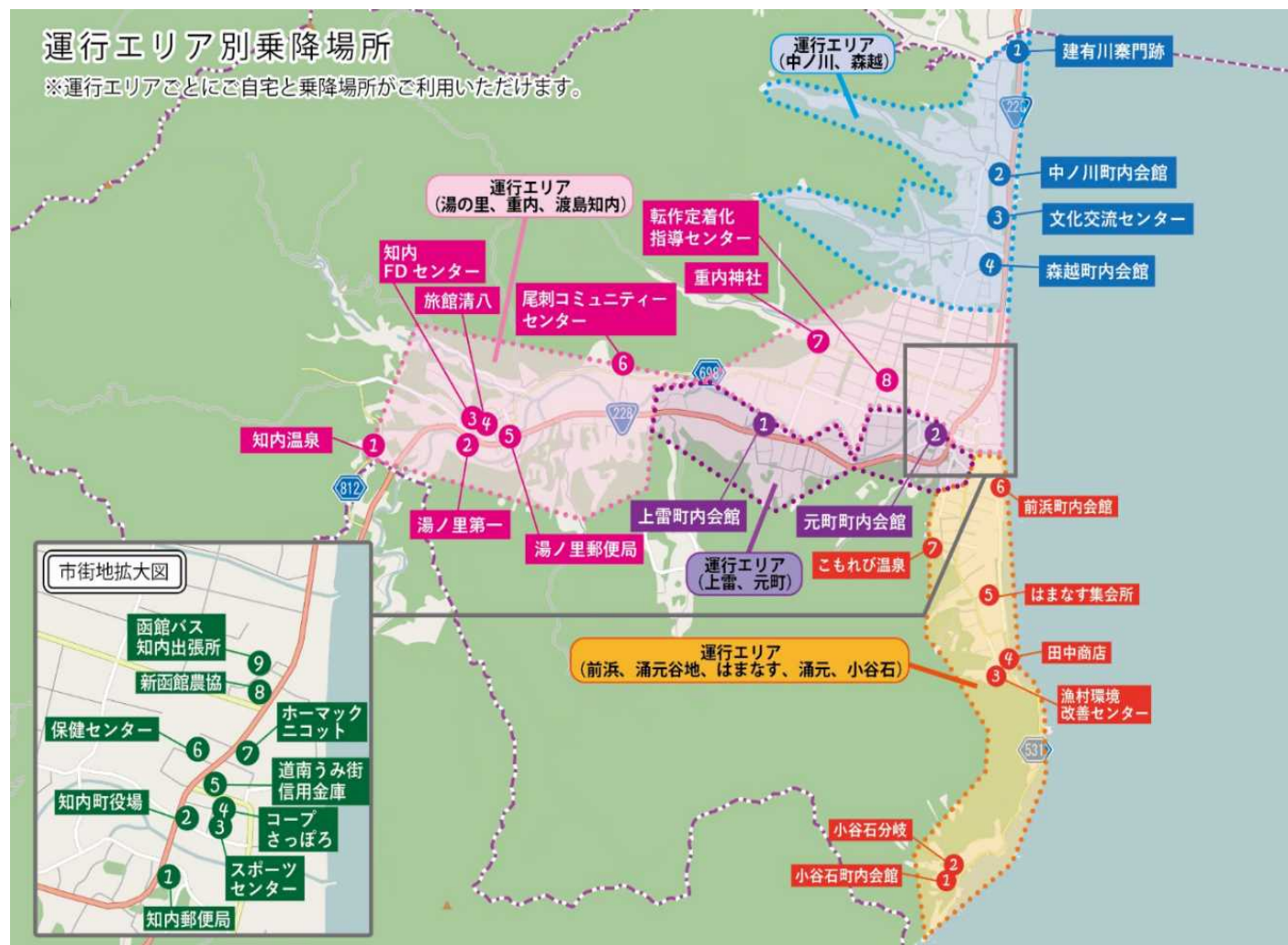
○平成28年度から平成29年度と2年に亘り、湯ノ里方面・小谷石方面において実証運行を実施し、他地域からも運行の要望があったため、町内全域での運行を実施

○デマンドバスの利用促進に向けて、以下のとおり実施した。

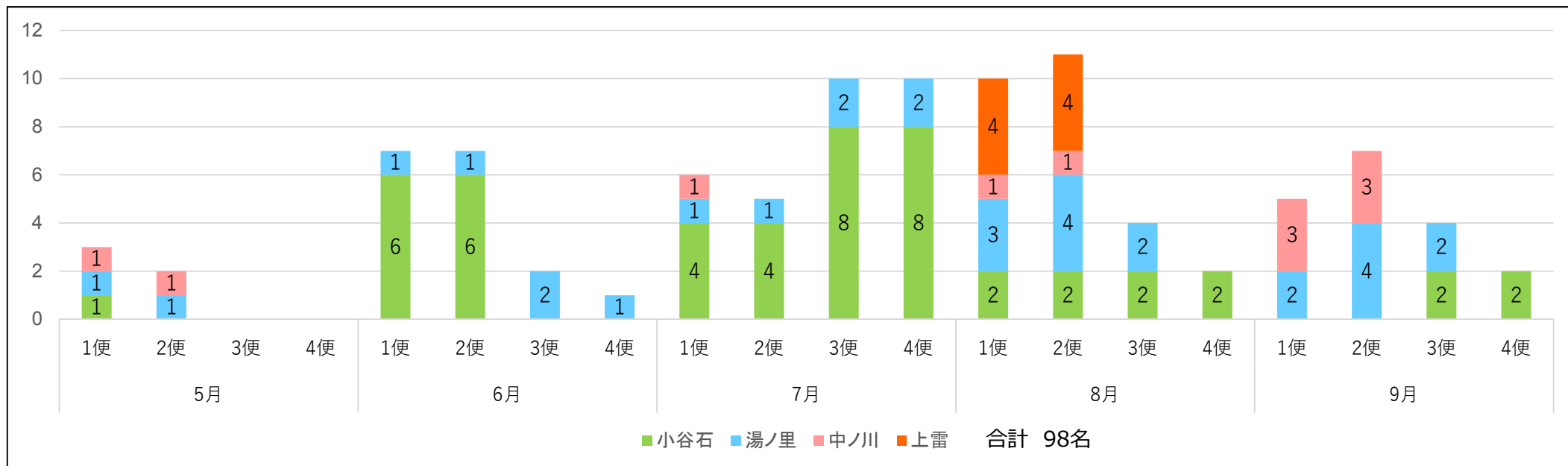
- I. 地域説明会(乗車体験)
- II. 地域イベントでのPR
- III. メディアの活用
- IV. 広報誌・折込チラシ
- V. 高齢者関連事業でのPR
- VI. 防災無線 など

○交通系ICカードの支払いを可能とすることで、既存の路線バスとの乗継により乗継割引の適用を可能とした。

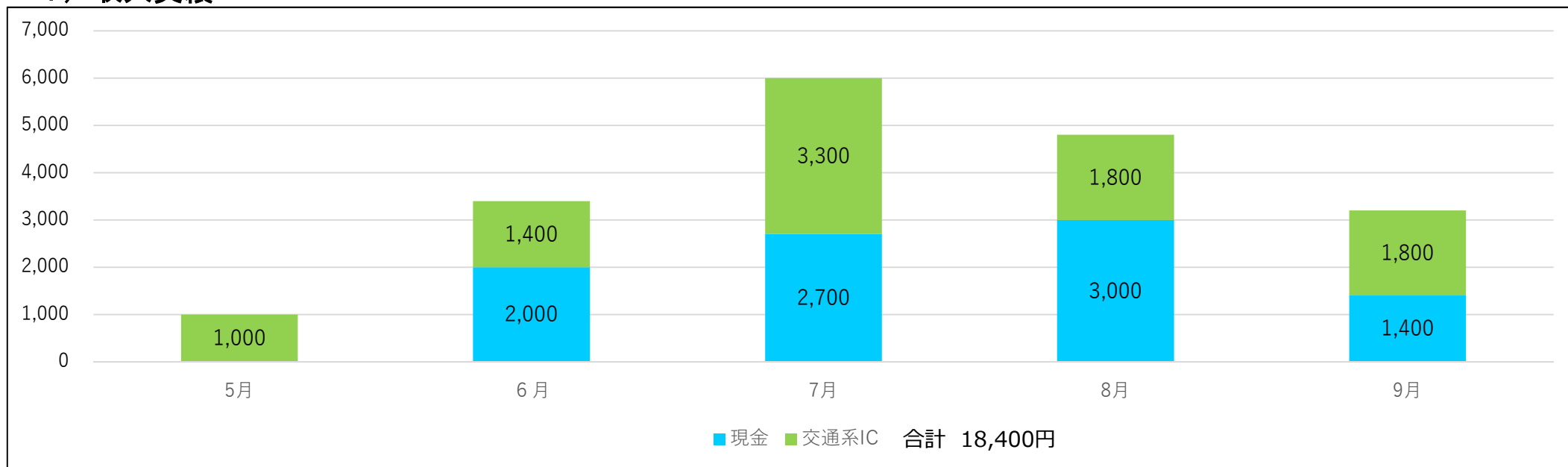
2) 運行系統



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

【事業の目標】

目標年間利用者数: 144人

実績利用者数: 98人

目標利用者数より実績利用者数は少ない結果となったが、高齢者等の交通弱者の交通手段を一定程度確保することができた。

【達成できなかった想定される主な要因】

- ・利用者ニーズの把握不足
- ・普及促進の不足

7) 事業の今後の改善点

- 町内全域にわたり運行を実施したものの、国道沿線の地域や市街地に近い地域については、利用者が少ない状況となった。利用者ニーズを把握するため、アンケートやヒアリング調査等を行い、運行方法や運行日について改善を検討・実施し、利便性の向上を図る。
- 補助対象外路線も2方面(中ノ川方面・上雷方面)発生したため、高齢者をはじめとする交通弱者に対して更なる利用促進や認知度向上に向けて広報誌や乗車体験など、継続したPRを実施する。
- 地域公共交通の必要性について、町民理解の醸成を図る取組を検討する。

8) 地方運輸局における二次評価結果

- ・自己評価のとおり事業は適切に実施されている。
- ・交通系ICカードを導入し、地域間幹線系統との接続の利便性向上に取り組んでいることを評価する。
- ・一方で、実証運行を経ていない中ノ川方面と上雷方面の運行割合が基準に満たなかったため、補助対象外になるなど、利用者数が目標を下回った。利用者が少なかった区域については、効果的な周知・広報活動を行うとともに、利用者ニーズを把握するための取り組みを行い、持続可能な事業となるよう期待する。